

令和7年5月29日

読谷村議会
議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員
城間 真弓 印

一般質問通告書

第545回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質問要旨	答弁を求める者
<p>1 戦後80年を迎え、本村の平和教育と平和行政における現状と方向性について。</p> <p>(1) 平和行政の施策は、単なる記念行事にとどまらず、地域社会に根差した持続可能な取り組みでなければならない。現時点での村の平和行政の基本方針と、それを次世代へどう継承していくのか、行政としての展望とは。</p> <p>(2) 戦争体験者が減少する中、若い世代への平和教育の在り方について、平和教育の形も変わらざるを得ません。現行の教育カリキュラムの中で、沖縄戦の体験や平和の意義をどのように伝えているのか。また、若者が主体的に学び・発信できるような教育の場の工夫があるか。</p> <p>(3) 沖縄では米軍基地がある故に派生する、性暴力や事件・事故が後を絶たない状況であり、基地の存在そのものが地域住民の安全や平和と相反する現状となっている。本村として基地問題を平和行政の中でどのように位置づけ、住民の安全と平和を守っていくのか。</p> <p>(4) 戦争経験者の生の声を聴くことがどんどん難しくなっていくなかで、平和教育や戦跡めぐりに必要な語り部や、平和ガイドの重要性和育成をどのように考えているのか。</p>	
<p>2 こどもが心から安心できる居場所づくりを！本村で取り組んできたこどもの貧困対策について。</p> <p>(1) 子どもの貧困対策事業の予算で、2021年に1ヶ所から2ヶ所に増やして村が直営で行ってきた「生活スキルアップ事業」「自立支援プロジェクト」に取り組んできた居場所が、今年度、また1ヶ所になった経緯とは。</p> <p>(2) 本村として、「自立支援プロジェクト」と「生活スキルアップ事業」をこれまでも良しとして取り組んできたと思うが、子どもたちにとっての居場所をどのように位置づけ、何を1番大切にして運営をしているのか。</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>(3) 今後、村内で取り込まれる民間の「子ども食堂」や「子どもの居場所」において、村として支援を拡充していく予定はありますか。</p> <p>(4) 6月27日の新聞で2024年度の「沖縄こども調査」が公表された。貧困層の割合はわずかに減少はしているものの、物価高騰の影響で中間層も含めて、生活の苦しさが増したと「大いに感じる」が58.3%を上回る。本村としてこの現状を受け止め、村で支援策等を考えているか。</p>	
<p>3 読谷村健康増進センターの運営・管理について。</p> <p>(1) 昨年12月～今年の5月まで月ごとの利用者数は。</p> <p>(2) 昨年12月の私の一般質問で、住民との意見交換について今年の2月に利用者との意見交換を行うとのことでしたが、意見交換会の回数と、参加した利用者の数、年齢層、また、話し合われた内容とは。</p> <p>(3) 健康増進センターの状況を利用者から声を聴く中で、子どものプール教室中に、子どもたちが溺れかけたり、溺れていたのをスタッフが気付くのが遅く、何度かヒヤリハッとしたとの声や、隣の大人のレーンで何度も高齢者の方がスタッフを呼んでいるも、その声に職員が全く気付かない。また、運動器具が置かれているジムの部屋にスタッフがいないなど、安全管理におけるスタッフの数や配置、また住民への対応に対して不満や不安の声が多く寄せられた。村として、その状況をどのように考え、対策をしていくのか。</p>	
<p>4 沖教祖による公立幼稚園の働き方調査により、離職意向が35%、業務に負担感が93%の結果が今年の3月の新聞報道で明らかになった。その結果を受け、本村として幼稚園現場の働き方について何か対策をとってきたのか。</p>	